平成２７年度　学校評価書　　山形県立村山特別支援学校 天童校

学校教育目標　かかわりの力を育てる　　目指す子ども像「元気にあいさつできる人（自立）」「楽しく運動できる人（健康）」「仲良く生活できる人（協力）」

【評価】 保護者、教員アンケートによる評価：Ａ：３点　Ｂ：２点　Ｃ：１点　Ｄ：０点　点数の合計で評価（質問項目ごと保護者最大３９点、教員最大２７点、〇数字は項目毎の点数）

達成度：Ａ 達成できた（８割以上）　Ｂ ほぼ達成できた（６～７割）　Ｃ あまり達成できなかった（４～５割）　Ｄ 達成できなかった（３割以下）

No	項目	重点目標	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
1	【早く登校したくなる楽しい学校】にするために	(1)個に応じた授業の充実に努める。 (2)特別支援教育に関わる専門性の向上を図る。	①個別の指導計画の活用 ②年間指導計画の作成と活用及びチーム検討会での支援のあり方の共通理解 ③教材研究で楽しい授業づくり研究授業の実施で授業改善 ④特別支援教育に関わる研修会の企画・実施	・個別ファイルの整備がしっかりなってない時期があった。 ・チーム検討会等を通して指導・支援の内容を確認したことで、場面に応じた言葉遣いや挨拶指導等、一人一人の児童への関わり方をより意識し意図的にかかわることができた。 ・うんどう遊びについての校内研究を行い、研究テーマに沿った授業実践の結果、児童は楽しく身体を動かすことができるようになってきた。また、講師を迎えての校内授業研究会では、うんどう遊びの学習内容について有意義な研修ができた。 ・学習の場をいっそう地域に広げ、児童が多くの経験を得ることができるようにした。 ・小児科や精神科の医師、校内の教師が講師を務め、教師の専門性を高める研修会を実施することができ、大変有意義であった。 ・性に関する指導についての研修希望があったが、講師の調整がつかず、実現できなかった。	B 78.5 %	**【指導・支援の充実、専門性の向上】** ・個別ファイルについて、担任は必要な資料の整理を心掛け、教務部での点検を確実に行っていく。 ・個別の指導計画を活用した学習活動を行っていくために、全児童を対象にした理解研修会を年度当初に行っていく。 ・児童の運動量を確保するために、家庭とも連携しながら、運動遊びの内容を工夫したり、休日の過ごし方を考えたりしていく。 ・経験拡充、地域への参加を目指して、学校周辺の施設（わくわくランドやスーパー、飲食店）などを利用した学習活動を計画し実施していく。 ・研修会の実施方法については、他校との情報を交換しながら確認し、計画的に実施できるようにしていく。
		関わりの力　教１⑰　楽しい学校　教２⑳＋保１㊱　授業改善　教３⑮＋保２㉞　個別指導・支援　教４⑯＋保３㉞　専門性　教５⑰＋保４㊲				
		(3) 津山小、本校、山形校との人との連携を図り､関わり方や自分の思いを伝える力を育む。	①津山小との共用施設等を活用した意図的交流、自然交流の機会の設定 ②双方にとって価値ある交流及び共同学習実施に向けた本校・山形校との連携・協力	・交流及び共同学習については、全体計画を作成し、本校のねらいを明確にして実施することができた。また、担当者間での打ち合わせを行ったり、共に活動する児童の名前を覚えたり、活動後に手紙を書いたりするなどして交流を深めることができた。 ・本校や山形校との交流では、どのような交流をしたらよいか、内容や時期など大まかに計画するようにしたことで、次年度の単元計画を考える際に生かすことができるようになった。 ・津山小学校６年生が計画し実施された「6 年生とあそぼう」は、本校児童が興味関心を持つ遊び場で、お互いに楽しく遊ぶことができ、大変よかった。	A 81.8 %	**【交流及び共同学習】** ・校外学習の場での交流だけでなく、事前事後の学習もしっかり計画し、視覚教材等も用いて、思いを伝えあえる内容を学習に取り入れていく。 ・次年度からも、交流のための年間計画を年度当初に立て、年間を通してお互いのねらいにそって、計画的に交流ができるようにしていく。
		津山小、本校、山形校との交流　教６⑱＋保５㊱				
2	【安心してまかせられる安全な学校】にするために	(1)事故の未然防止と事故のない学校生活が送れるように努める。 (2)天童校占有スペース、津山小との共有スペースの教育環境を整える。 (3)安全管理の体制を一層整える。	①「ヒヤリハット」事案の記録の蓄積と分析（児童の重大事故０）を行い確認し合う ②共用の施設設備を有効に使用するために津山小学校との連絡調整を密に行う ③津山小学校との連携を図り、非常時に備えて避難訓練や研修会を実施する	・職員会議で周知し、その都度対応できた。大きな事故やけががなく過ごすことができた。 ・発表練習に向けて、教務間の調整で津山小のステージを借用でき、マイク等の設備も借りて練習を行うことができた。ステージ上の発表練習は児童にとって自信にもつながり効果的だった。 ・津山小体育館の用具室を借りられるようになり、運動遊びの教材等を収納できるようになり準備や片付けがしやすくなった。一方で教材が増えてきており整理整頓が欠かせない。 ・津山小学校と連携しながら合同で避難訓練を実施することができた。また、心肺蘇生法講習会にも教員全員で参加することができた。 ・緊急時の対応について、紙面での読み合わせに加え、実際に対応訓練を行うことで、職員それぞれのより具体的な動きを確認したり、改善点を共通確認したりすることができた。	A 82.4 %	**【安全な学校】** ・ヒヤリハットについて、さらに安全に過ごすためには、終礼等でその都度、報告・周知していく。 ・今後も体育館用具室に教材を収納させもらう上で、常日頃から整理整頓し、単元ごとに不要な教材の処分等も心掛けていく。
		事故防止　教７⑰＋保６㊴　　教育環境　教８⑬＋教９⑳＋保７㊲				
3	【相談や支援を受けられる頼りになる学校】にするために	(1)校内の就学や進学、卒業後の進路について相談支援体制の充実を図る。 (2)障がいのある子どもの教育相談に丁寧に対応する。 (3)特別支援巡回相談事業に積極的に対応する。 (4)天童校の情報を校外へ発信する。	①必要に応じて関係機関との連携を図る ②県や天童市の教育支援に協力する ③教頭が窓口になり巡回相談事業に協力する ④地域回覧用と保護者用学校だよりを定期的に発行する	・6 年生の進路に関わって学校見学について保護者の要望に応じられるように、学校間で連絡・調整を図ることができた。 ・今年度の教育相談は 4 件。内 2 件が就学相談として対応した。 ・天童市内の小学校から要請があり校内研究会の助言者（土肥 4 回、教頭 2 回）として協力することができ、センター的機能を果たすことができた。 ・季刊号（春、夏、秋、冬）として年 5 回、地域に向けた学校だよりを発行したり、津山地区文化祭に児童の作品や映像を流すコーナーを設置したりして情報を伝えることができた。	A 83.6 %	**【家庭・地域との連携】** ・一部の教員だけでなく、教育相談ができるように、また、センター的機能を果たせるように現職研修の機会を計画的に位置づけて研修を行っていく。 ・幼稚園、保育園を訪問し、天童校についての情報を提供する。 ・開かれた学校づくりのために、地域の方々との交流の機会を意図的に設定していく。
		相談支援(校内／校外)　教 10⑱＋教 11㉑　　センター的機能　教 12⑰　　開かれた学校　教 13㉓＋保８㊴＋保９㊳				
4	【働きやすいやりがいのある学校】にするために	(1)月 2 回の「定時退校日」の確実実施に取り組む。 (2)一部の教師に負担をかけない。 (3)子どもや授業づくりのための時間を確保する。 (4)津山小と調整を図り、見通しをもって計画的に教育活動が行われるようにしていく。	①月予定週予定に定時退校日を明示し、会議を入れず、定時で帰るよう終礼でも確認する ②各校務分掌部内での業務の役割分担を明確にし、チームで業務に取り組んでいく ③放課後の会議の精選を図る ④津山小学校と天童校の担当者間、教務主任間、教頭間でそれぞれ適宜連絡を取り合う	・今年度から定時退校日を各月に 2 回設定し、取り組んだ。各自の仕事を計画的に進めることにより定時退校が実施できた。 ・2 学期の通知表作成期間を 1 週間設定しており、会議を入れないようにしていたが授業研究会の日程の変更や助言者の都合もあったため、その間に学校研究に関わる研究会が一日入った。 ・津山小学校運動会等、計画の段階では役割分担や準備時間が明記されていたが、実際には計画通りに実施できないときがあった。事前の担当者間での話し合いを密にし、その都度お互いの動きを確認しながら取り組むことが必要である。	B 75.5 %	**【協働体制づくり】** ・隔週に 1 回定時退校日を設ける。 ・授業研究会等について日程の設定等を含め、見通しをもって計画的に進めていく。なお、研究関係の会議等については年度当初に研究推進委員会で計画し、日程調整していく。 ・行事については、担当者間での話し合い、教務主任同士での日程調整などを見通しをもって、適宜行っていく。
		定時退校　教 14㉑　　校務組織　教 15⑰＋保 10㊴　　ゆとり　教 16⑮　　連携　17⑱				